



ヨゼフ アベイヤ司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人
カトリック福岡司教区
編集人 山元 真
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 1部70円

8・9月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【教皇の意向】(8月) 小規模事業
(9月) 死刑廃止
【日本の教会】(8月) 世界の平和
(9月) 高齢者

日本カトリック平和旬間に寄せて

平和のために働く決意をあらたに

福岡教区長 ヨゼフ・アベイヤ司教

今年も8月6日から15日まで「日本カトリック平和旬間」を迎える。いまだ終息に至らぬコロナ禍に加え、2月に始まったロシアのウクライナ侵攻に終わりの見えない状況が続いている。平和旬間を迎える今この時、アベイヤ司教は、強い思いで平和のために祈り行動する教皇フランシスコに心を合わせて、いつも以上に平和のために祈り働く決意を新たにしようと呼びかけている。



「平和を祈って」 画：MINO CEREZO 神父

今年の平和旬間は、私たちの目を、特にロシアのウクライナ侵攻によって始まった戦争に向けさせます。毎日の

ように報道されている戦争の情報は、私たちに深い痛みと強い憤りを感じさせます。様々なところから発射されるミサイルは、人々を殺しても、住宅、学校、病院、教会等を破壊しても、手に入れたものを優先させる欲望の現れです。恐ろしいことです。教皇フランシスコは、この戦争を「虐殺」と呼んだのです。どうして現代においてこういうような戦争が起こるのでしょうか。専門家は、色々と分析していますが、より深く考え

ますと、権力や支配の欲望から生まれてくるのが分かります。人々の苦しみは、「敵の苦しみ」と見て、殺し合いが続きます。

教皇フランシスコの想いを受けて

教皇フランシスコは別の視点の必要性を強調されています。回勅「FRATELLI TUTTI(兄弟の皆さん)」には「どの戦争も必ず、世界を、かつての姿よりいっそう劣化させます。戦争は、政治の失敗、人間性の欠如であり、悪しき勢力に対する恥ずべき降伏、敗北です。理屈をこねるのはやめて、傷に触れ、犠牲者のからだに触れようではありませんか。『巻き添え被害』で殺戮された無数の民間人を、しっかりと見つめようではありませんか。犠牲者に尋ねようではありませんか。

今年の平和旬間を迎えて

日本カトリック司教協議会会長の今年の談話の冒頭に「平和は可能です。平和は義務です」と書いてあります。これを信じ、平和を求める様々な動きに加わることが大事だろうと思います。そしてそのために一人ひとりの人間の尊厳を心に留め、人権を守り、誰もが排除されない社会を築いていくことは不可欠な義務です。

平和旬間を迎えて、各小教区、各地区に集って、平和を思い、平和について話し合い、平和のために祈ることは、とても大切です。神様の望みに応えることです。そして、その中で平和のために働く決意を新たにいたしましょう。

ヨゼフ・アベイヤ

時の話題

すべてのいのちを守るため

「(一)日本は、経済的に高度に発展した社会ですが、社会的に孤立している人が少なくないこと、いのちの意味が分からず、自分の存在の意味を見いだせず、社会の隅にいて、決意が少なくないことに気づかされました。」(教皇の日本司牧訪問・ミサ説教より)

日本は先進7か国では唯一、15歳、34歳の若者世代における死因の1位が「自殺」という国である(2020年)。

特に一昨年は、小中高生の自殺者数が、調査開始以来最多の499人を記録するなど、私たちの国では多くの若者が、自らのいのちを断つという選択をしてしまっているという現実がある。

このような選択をしてしまいう大きな背景のひとつには、冒頭の引用で教皇が指摘しているとおり「社会的な孤立」というものが考えられるだろう。特にコロナ禍にある昨今、多くの人が健康の問題、経済的な問題など様々な理由から「孤立」を感じてしまっていると感じる。実際、私の周りでも同世代の友人や学生から、コロナ

禍によって友人と会うことが難しくなって寂しいと嘆く声や、アルバイト収入が少なくなっている生活が苦しいといった声を耳にすることがあった。私はそのような声に對し心のどこかで、「今の社会状況では仕方ない」と思っていた。ただ、簡単に「仕方ない」と済ませることが、いつしか苦しむ人々への「無関心」につながり、それがその人の「孤立」を深めさせることにつながるおそれがある。

「すべてのいのちを守るため」に私たちにできることは何か。今一度、真剣に考える必要がある。

福岡カトリック神学院
神学科2年 吉浦 勲

大分教区・司教叙階式 森山信三司教誕生



ミトラ・バクヘ
指輪・頭にかぶるミトラ・バクヘ
指輪(司教杖)を手に司教座へ



森山司教の紋章

異例の速さで梅雨明けした今年の7月3日(日)、大分市のJ・COMホルトホール大分で、長崎大司教区・中村倫明大司教主司式、駐日教皇大使レオ・ポツカルディ大司教と日本の司教団の共同司式により、司教叙階式が執り行われ、福岡教区で長年に渡り宣教司牧の奉仕をしてきた森山信三被選司教が司教に叙階された。

森山司教が教区長となる大分教区は、大分県と宮崎県の2県から成り、信者総数は5858人(2021年末現在)の教区である。

コロナ感染対策で、入場は会場定員の半分に抑えられたが、宮崎県からはチャーターバスでの来場や、福岡教区からは司祭団をはじめ、信徒代表として、森山司教が福岡教区時代に司牧をした小教区から70人ほどが叙階式に参加し、これまでの感謝と今後の更なる活躍をともに祈った。

参加した信徒使徒職協議会・大分地区会長、荻木久美さんは「素晴らしい司教様を頂き感謝いたします。司教様と共に歩む大分教区にしたいと思っています」と。また同・宮崎地区会長、若山治憲さんは「前教区長浜口末男司教が帰天し、コロナ禍中の司教不在に不安であったがホッとした。共に歩みながら導いて欲しい」と、両者ともシンドス(共に歩む)を強調した。

サンスルピス大神学院(現福岡カトリック神学院)で同期でもあった中村大司教は



アベイヤ司教(右)と森山司教(左)の抱擁

司教叙階のカードには「私は傷ついたものを包み、弱ったものを強くする(エゼキエル書34・16)」を掲げる森山司教。式後の司祭団の退堂時、最後に森山司教が通ると会場内には自然と大きな拍手が巻き起こり、森山司教は立ち止まり深々と頭を下げた。

※叙階式の模様や、これまでの森山司教の歩み、インタビューなどの動画が、教区ホームページよりご覧になれます。



みずのきせき

毎朝、ヨーグルトにバナナと蜂蜜を混ぜて食べる習慣がある。ちまたでは、健康に良い朝食の一つだと、以前、どこかで読んだことがある。それ以来、そのような朝ご飯を食べるのが当たり前になってきた。ところが、先日、目が覚めて台所に行くとバナナがない! 不満を覚えた。バナナなしのヨーグルトと蜂蜜を少々食べながら、ふと思ったのは、「そもそも、ほぼ毎朝バナナが食べられるのは昔の人たちから見れば夢のようだった」。

最近、日本在住のウクライナ人の話を聞く機会があった。出身地はドンバス地方で、ロシア侵攻が始まって以来、一番激しい戦いが繰り広げられている同国東部にある地域である。ロシア本土の近くに位置しており、ロシア出身者が多く住んでいる地域なので、ロシア軍が集団的に狙っているそう。日本のメディアにもしばしば報道されているように、激戦のために家を失った人が少なくない。あらゆるライフラインが停止しているため、ドンバス地方の多くの人が周辺の森などで食料を採集し、屋外で質素な料理を強いられているのが現状という。

それでも諦めないウクライナ人の心の強さに感心する▼ウクライナ人の話を聞いて思った。あらゆる食料が簡単に手に入るという、恵まれた環境のありがたみを忘れやすい自分が「平和ボケ」ということだろうか。ウクライナをはじめ不幸な境遇にある世界中の人たちの話を傾けることは、ありがたみを忘れた自分の「平和」ボケ防止になるだろうか。いや、これが踏み出す最初の一步だろう!(E)

～ 聖書週間から聖書習慣へ ～



毎年11月、聖書に親しみ、聖書をより正しく理解するための運動として「聖書週間」が定められていますが、年に一回の機会だけでなく、常に「聖書習慣」を身に付けることを実践したいものです。

今号では、ショファイユの幼きイエズス修道会・久留米修道院のシスターが行なっている「福音の分かち合い」を紹介します。

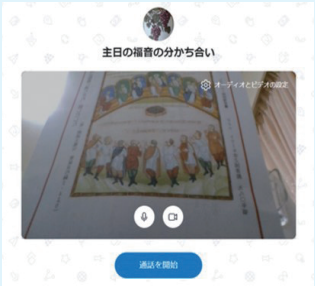
ショファイユの幼きイエズス修道会 久留米修道院 「主日の福音の分かち合い」

毎日曜日、スカイプで、主日の福音の分かち合いをしています。この集いは、元々は集まって行われていたのですが、コロナにより、集うことが不可能となりました。ミサもなく、集うこともできず、互いに霊的な渇きを感じていました。

そんな中、オンラインで、分かち合いができないだろうかという声があがりました。手探りの内に、分かち合いを始めました。最初は、ツイッターのビデオ機能を使いましたが、通信障害がよくおこり別の方法を探しました。次に、スカイプにすると、比較的スムーズにできました。手探りで始めたオンラインの分かち合いでしたが、徐々に慣れ、やがてチャット機能も併用するようになりました。それで、URL等の情報の共有もできます。

オンラインの便利なところは、直前まで別のことをしていても、SNSがあれば、その場ですぐに参加できることです。時には、旅先にいる人が宿から参加することもありました。家事や仕事など手が離せない時も、声だけ参加することも可能です。外出の準備もありません。日常の中に、自然と分かち合いの時間が入ってくるのです。「明日は分かち合いだから、あれこれ片付けて、時間を作らねば」と気負う必要ありません。気乗りがせず、直前までためらっていても、その時間に「やはり参加しよう」と思えたら、すぐに参加できます。そして、参加すると、福音の泉、参加者の心の泉から、豊かな霊的水に潤され、主のみ言葉と共に、又この一週間を生きようという、力と恵みを頂きます。

コロナ禍という苦しい道の中で、一歩を踏み出したとき、主が新しい泉へと導いて下さったのだと思います。二人三人が主のみ名のもとに集うところに、主は共におられるという言葉を変えて感じさせて頂いています。



オンライン分かち合いの入口

ショファイユの幼きイエズス修道会・久留米修道院 Sr. 田川ささの

ミサの式次第（第3版）

に関するお知らせ

今年2022年11月27日（待降節第1主日）より、ミサ式次第の言葉が変更となります。カトリック教会では「ローマ・ミサ典礼書」ラテン語規範版に基づいて、各国の国語訳と適応が行なわれます。

現在、私たちがミサで使用している日本語版『ミサ典礼書』（1978年）は、ラテン語規範版第2版（1975年）に基づくものです。その後、ラテン語規範版第3版（2022年）が出版され、それに伴い改訂作業が進められてきました。今回のミサ式次第の改訂は、このラテン語規範版第3版に基づくミサ式次第の言葉の変更となります。

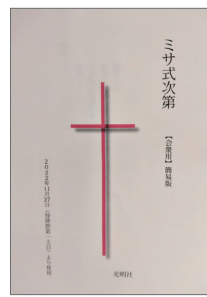
どのような言葉に変更される

るのでしょうか。詳細は、福岡教区事務局より教区内のすべての小教区に見本として配布された『新しい「ミサの式次第と第一（第四奉献文）」の変更箇所』（カトリック中央協議会）をご参照ください。

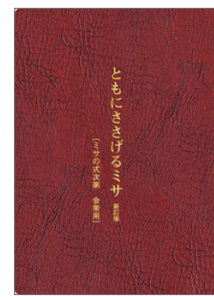
この冊子には、改訂作業の経緯、ミサの式文の全文とともな改訂箇所の解説が掲載されています。また、ミサ式次第の改訂箇所のみを知るためには、カトリック中央協議会のホームページに『会衆と奉仕者が唱える式文のおもな変更箇所』は、下記QRコードよりご覧になれます。



・サンパウロ 発行
『キリストとわたしたちのミサ』
495円（税込）
※9月中旬に発行予定



・光明社 発行
『ミサ式次第（会衆用）簡易版』
110円（税込）



また、各出版社より、ミサ式次第（会衆用）の販売も始まっています。
・オリエンツ宗教研究所 編
『ともにささげるミサ（新訂版）—ミサの式次第（会衆用）』
770円（税込）

福岡教区の典礼委員会は、以下を通して、皆さんと一緒に新しい「ミサの式次第」に向けて準備を行なっていくま

①『教区報』の記事
②教区ホームページでのお知らせ
③典礼研修会
【日時】
第1回10月2日（日）
第2回11月6日（日）
※両回ともに14時～

【場所】大名町教会講堂
どなたでも参加可能です。
新しい「ミサの式次第」の言葉の変更箇所を学ぶだけでなく、もう一度ミサと向き合っていく機会にしたいと思いま

佐賀教会 献堂式に寄せて



喜びの内の集合写真
現佐賀地区主任と献堂に関わった司祭団

7月18日（月・祝）、ヨゼフ・アベイヤ司教様司式のもと、佐賀教会献堂式が執り行われました。佐賀教会の信徒は、新しい教会の献堂によって、大きな祝福と喜びに満たされ、聖母マリア様と心を合わせて、救い主である神様をほめたたえています。



香油で新聖堂を聖別するアベイヤ司教

教会建設は建物の完成が最終目的ではなく、これからの活動がより大切であると自覚しております。新しいぶどう酒を入れる新しい皮袋として、「福岡教区宣教司牧方針」の目標に向かい一致団結して新

様の貴重なお恵みでした。意見の相違や様々な受け止め方が、時の経過の中であたかも樽に仕込まれたお酒の原料のように徐々に発酵しあいながら、相互に熟成されていき、いつの間にか信徒の心が一つになる事ができました。交わりと一致のすばらしさを実感させていただくお恵みの期間でした。

【委員長 井手公平神父】
様々な活動を通してわたしたちの生きている社会を、福音に導かれて神が望んでおられる社会に近づけていくための働きを企画し、また、実際に行われている活動を支える。これらの活動を通して一人ひとりの信仰が強まり、教会はより深く福音に根差していく。四つの部門によって構成される。

(1) カリタス部門
カリタス・ジャパンとながって、必要な援助を行うように活動する。
(2) 正義と平和・人権部門
長崎大司教区の竹内英次神父（二日市教会主任）のご母堂が、7月3日に帰天されました。享年83。

【委員長 十時伸治神父】
各地区の典礼委員会（あるいは担当者）とともに、福岡教区の信者の典礼への理解を深め、典礼によって信仰が養われるように適切な企画を準備し、行う。
・教区主催で行われるミサ等の準備を担当する。
・典礼の事柄に関して他の委員会と協力する。

【委員長 井手公平神父】
障がい者部門
障がい者と共に歩みながら、障がい者がともに生きる教会や社会を目指して活動をする。

【委員長 井手公平神父】
先月号より、今年度再編成された福岡教区の5つの常設委員会を紹介しています（『福岡教区ハンドブック2022』参照）。
第2回は典礼委員会と社会福音化委員会です。

一人ひとりの人間としての尊厳とすべてのいのちを守ることを求めて様々な活動を展開する。日本の教会の正義と平和協議会や部落差別人権委員会とのつながりを持ちながら、全国的な企画を福岡教区においても推進する。福岡教区の平和旬間を企画する。
(3) 難民移住者部門
難民移住者に寄り添い、この方々が日本の社会や日本の教会の中で受け入れられ、生活できるように様々な活動を展開する。物質的、法律的、また、他に必要とされている支援を行い、信者の皆さんに協力を呼び掛ける。外国から来られた信徒の司牧的な働きを調整する。

これからも神様のお導きと、主任司祭の牧山美好神父様のご指導のもと、心をひとつにして福岡教区の目標に向かって歩んで参る所存です。
信徒会長 大芝和実
※献堂式の模様は、福岡教区ホームページから視聴できます。

【委員長 井手公平神父】
先月号より、今年度再編成された福岡教区の5つの常設委員会を紹介しています（『福岡教区ハンドブック2022』参照）。
第2回は典礼委員会と社会福音化委員会です。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOUEN)
カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

不動産全般/売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください
(株)ジャパン・スマイルか
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092-761-8800
http://www.jpuka-japan.com/

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事
・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
森山工務店
有限会社
ヨゼフ 森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎ (092) 811-7265

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は
メモリーロード
薬院・油山・野芥・小田部・今宿
馬出・南福岡・大野城・飯塚
市民葬儀・法事相談センター
六本松店・赤坂店 福岡メモリーロード(株)
☎ 0120-45-1616

知りたい！
福岡教区内の
修道会
宣教会⑤

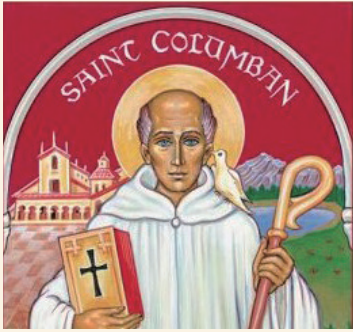
福岡教区には現在 30 の修道会・宣教会から司祭・修道士・修道女が派遣され、それぞれのカリスマで働いておられます。
今春より紹介している、その修道会や宣教会。
第5回は、聖コロンバン会です。

聖コロンバン会

聖コロンバンは、540 年ごろにアイルランドで生まれました。50 歳ごろに 12 人の修道者たちと共に、暗黒の時代のフランス・ドイツ・スイス・イタリアで男子修道会を設立し、宣教活動を始めました。615 年、彼が創立したボッピオという修道院で亡くなり、そこに葬られました。彼の祝日は 11 月 23 日です。

1912 年、一人のアイルランドの教区司祭がニューヨークで宣教していました。彼は、中国で働いているある宣教師の話聞いて、中国に行くことを召命と感じました。そこで、「収穫は多いが働き手は少ない」と感じ、宣教師を送る組織が必要であると思いました。その為にアイルランドに帰国して大神学校の教授であるジョン・ブローウィックと出会い、彼らによって中国へ宣教師を派遣する聖コロンバン会が創立されました。そして、ローマから「聖コロンバン」を保護の聖人にすることを勧められました。

聖コロンバン



1920 年、最初に、聖コロンバン会の 17 人の司祭たちが中国に送られました。しかし、共産主義の支配下になると中国から追放されました。また、聖コロンバン会は、韓国・台湾・フィリピン・フィジー・チリ・ペルー・パキスタン・ミャンマー・日本で宣教活動することになりました。

1934 年、コロンバン会の司祭であるオブライエン神父様とドイル神父様が、韓国にいる日本人の為に日本語を勉強する目的で来日しました。その後、第 2 次世界大戦が勃発し、一時帰国しました。戦後、土井司教様から正式に「聖コロンバン会」として来日し、宣教してほしいと要請されました。

1948 年、日本で聖コロンバン会の新しい日本管区が設立され、千葉県・神奈川県・和歌山県・熊本県の司牧を担当することになりました。これまで 169 人の司祭と 19 人の信徒宣教師が日本に派遣されました。その中で 75 人が福岡教区で司牧しました。現在、日本にいるのは 11 人です。熊本には 2 人しかいません。日本の教会と共に学び合い、励まし合い、支え合ってきました。神に感謝。

熊本県・九州地区 ハリー・オカロー神父（八代・水俣教会 主任司祭）

島崎教会で聖体の祭日に毎年行われる聖体行列。コロナウイルス感染拡大防止の為に自粛されていたが、今年は、6 月 19 日 9 時のミサに続き 3 年ぶりに挙行された。他の教会への呼びかけを控えたため、参加者は司祭・修道士・信徒等 85 人であった。行列は教会を出て、北側に位置するマリアの宣教師フラインスコ修道会の聖堂まで約一キロのコース。この間、皆でロザリオを唱え聖歌を合唱しながら進むが、今年は、特別の意向として天の御父にコ

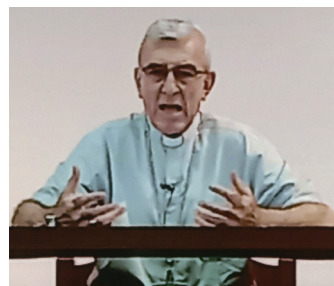


高く掲げられた聖体に花びらが舞う

熊本島崎教会にて三年ぶりに聖体行列

コロナ禍の早期終息と、ロシアのウクライナ軍事侵攻の終結を願った。

行列は一般市道を約 500 メートル進み、そこから修道院の敷地内に入る。ここは 130 年前、救済事業の為にハンセン病療養所待労院が建てられた所であるが、今では役目を終え、跡地には大きなイチヨウの樹木が深く根をはり、優しく木陰を落として、3 年ぶりの聖体行列を見守るようだった。そこを通り過ぎると聖母の丘老人ホームがあり、この広場で入居者の為に盛大に聖体祝福が行われた。聖体が高く上げられると、花撒の子供たちが花びらを高く撒き、その花びらは舞い落ちて回り一面、色とりどりに染める。この有様は、野外ならではの光景であろう。そして行列は修道院の聖堂に着き、祭壇にて静粛で荘厳な聖体賛美式が捧げられた。



情熱を持って語るアベイヤ司教

6 月 18 日（土）長崎カトリックセンターで行われた研修会に参加した。九州地区から修道女約 100 人が参加し、コロナ対策万全の中、アベイヤ司教の講話「FRATERNITY（兄弟の皆さん）共に生きる世界を求めて」を拝聴した。自身の体験を交えて具体的に語りやすく語り、途中の意見交換では参加者同士で内容を確認し合った。

九州地区修道女連盟研修会

聖体行列に参加した信徒は「聖体行列に参加することは、年に一度の大切な機会です。それは、教会の外で皆と一緒に

に声を出して祈ることです。とてもありがたいです」と感想を述べた。
報告 熊本島崎教会 高木光行

日本人と外国人が共生できる日本へ ウクライナ支援から

「国籍・性別に関わりなく、個性と能力を発揮することが出来る社会を目指す」

この理念を踏まえて、福岡県を拠点として外国人を支える特定非営利活動法人（NPO 法人）「グローバルイフサポートセンター」（代表理事、山下ゆかりさん）が、日本に暮らす外国人のサポートと同時に、日本社会や環境の改善においても貢献を果たしている。

2008 年の同法人設立以前から、山下さんは福岡市にやってきたフィリピン人女性らと友だちになり相談に乗ることが多々あった。長期的に日本に暮らしたフィリピン人でも、日本での生活で不自由が多く、納得できない事情があり帰国を選択した人もいたという。これをきっかけに外国人への支援を単に増やすだけでなく、日本の態勢改善の必要性を感じたという。

そこで、ベトナムやフィリピンなどから日本にやってくる技能実習生の支援事業だけではなく、外国人と日本人が共生していく上での具体策の提案などを行う「グローバルコミュニケーション認定講座」や「医療通訳」などの養成事業も繰



福岡県内のイチゴ農場で作業する吉塚教会の信者と技能実習生（右）



支援活動について話す山下ゆかりさん

カトリック信者でもある山下さん（吉塚教会）は「人の助けとなつていくか神様に確認するが、うまくいかないときは神様の意向でなく、自我を優先している時と気付く」と振り返る。※山下さんのインタビュー動画を下記 QR コードから視聴できます。

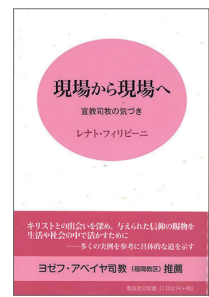
山下さんは「日本に暮らしている外国人も、彼らの周りにいる日本人も、法律などをより正しく理解すれば、問題を未然に避けられる。とにかく、相談相手が近くにいることが重要だ。そのために日本人も適切な知識を身に付けることが大事」と強調する。



入管法や労働法などを勉強している外国人技能実習生たち



☆現場から現場へ 宣教師の気づき
レナト・フィリピーニ（著）



来日して 25 年を経たレナト・フィリピーニ神父。彼が 2009 年から 2020 年にかけてカトリック新聞の投稿欄「意見、異見、私見」に投稿した、28 の記事の再編集。キリストとの出会いを深め、与えられた信仰の賜物を、生活や社会の中で活かすために多くの実例を参考に、具体的な道を示す。

税込価格 1100 円
教友社発行

☆寅さんの神学 米田 彰男（著）



映画『男はつらいよ』の主人公・寅さんとイエスの共通点を描き出して好評を博した前著『寅さんとイエス』（筑摩書房、2012 年）。

刊行後のさまざまな反応を交えつつ、人間の色気、食卓、甘え、ユーモアと笑いを軸に、前著の学問的根拠をエッセイ風に綴る。神学と聖書学研究で培われた豊かな学識をベースに、ときに軽妙洒落な文体で寅さんとイエスを通して愛である神との出会いへと再び読者をいざなう。

オリエンツ宗教研究所発行
税込価格 1210 円

広告掲載をご希望の方は
下記までお問い合わせください

福岡教区本部事務局 広報部
電話：092-522-4059
メール：cdf-kouhou@nifty.com

※この枠で 1 回（ひと月）5,000 円の献金（目安）をお願いしております。
※内容によってはお断りさせていただく場合もございます。あらかじめご理解とご了承のほどをお願いいたします。

社会医療法人 雪の聖母会



聖マリア病院

〒830-8543 福岡県久留米市津福本町 422
TEL.0942(35)3322 FAX.0942(34)3115

聖マリアヘルスケアセンター

〒830-0047 福岡県久留米市津福本町 448 番 5
TEL.0942(35)5522 FAX.0942(34)3306

信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん
と一緒に働いてみませんか

URL: <http://www.st-mary-med.or.jp/>

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション

自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。
費用は医療、介護保険でのご利用になります。

春日市天神山 7-91 TEL&FAX 092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社 代表：エリザベト熊谷

キリスト教書籍・用品
お買い物は 365 日、24 時間 いつでもどうぞ！

<http://www.paulus.jp>

パウルスショップ



メディアによる福音宣教のために...

サンパウロ福岡宣教センター

10:00~18:00(月~土) / 日・祝日休業 / 地下鉄赤坂駅より徒歩 3 分 * 駐車場完備
〒810-0042 福岡市中央区赤坂 1-14-26 ☎092-721-2032 fax 739-3930

